

StreamAuthor を利用して

大倉 真人¹⁾, 鈴木 斉^{1),2)}

1) 長崎大学 経済学部

2) 長崎大学 情報メディア基盤センター

Abstract: 本件では eラーニング学習教材を容易に構築できるオーサリングツール=StreamAuthor を用い Microsoft PowerPoint を利用した講義を、講義終了後直ちに配信可能な eラーニングコンテンツ (ストリーミング形式の講義) として構築することによる利点や今後の課題について報告する.

Key Words: e-learning, StreamAuthor, multi-media contents

1. はじめ

eラーニングの導入・普及に向けた動きが活発となる中で、つねにその話題の中心として、eラーニング向けのコンテンツの充実が上げられる。特に大学内の講義の“eラーニング化”を進めることが出来れば、コンテンツの拡充が見込めるが、現在進行形で行われる講義と並行して eラーニング向けの講義コンテンツを準備することは非常にコストのかかることである。

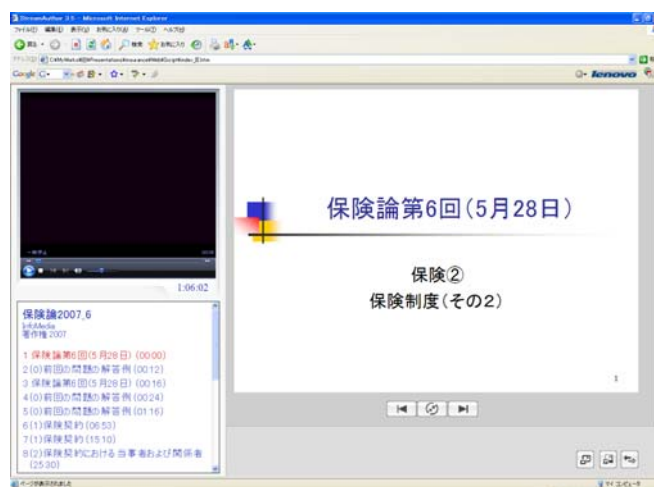
そこで本件では、Microsoft PowerPoint を利用した講義について、その講義内容を簡単に eラーニングコンテンツ化することを可能とするプラットフォームである CyberLink StreamAuthor を利用し、筆者の講義を実際にストリーミングコンテンツ化した事例について報告する。

2. StreamAuthor について

StreamAuthor[2]とはサイバーリンク株式会社製の教材作成プラットフォームで以下のような特徴がある。

- PowerPoint などを用いた講義・プレゼンテーションと動画を同期させながら録画し、容易に eラーニングコンテンツとして編集できる
- 録画後のプレゼンテーション (PowerPoint) や動画を容易に再編集可能
- 講義の録画自体も容易に可能 (具体的には、講師のみによる撮影編集も可能)

その他にも動画配信用のサーバ等の連携やコンテンツ自体の高度な編集機能も備えている[2]。今回は、この StreamAuthorを用いて、実際の 90 分の通常講義 (PowerPoint を利用) を eラーニングコンテンツ化した。



図：StreamAuthor の閲覧時 (学生側) の画面

3. 今回の講義

本件では、以下の内容の講義について StreamAuthor を利用した。

- 授業名：保険論 (経済学部)
- 実施日：5月28日 (月) 2時限目
- 受講生数：277名¹⁾ (3,4年生)

この講義は、経済学部の専門科目であり、数年来 PowerPoint を利用した対面講義形式で開かれている。

4. 利点と今後の課題

StreamAuthor による eラーニングコンテンツ化には以下のようなメリットがあると考えられる。

1. 授業を再度受けることが可能となることによる復習効果
2. 自身の授業の進め方に対する検証を行う上で有力なツールとなりうる

¹⁾ 経済学部では受講生の数が多い授業が少なくなく、多くの専門科目における履修者数は 100 名を超えている。

3. 授業欠席者に対するフォローアップ

なお、パワーポイントのスライド形式+音声を保存した場合1回の講義あたり約300Mbyte程度となることから半期すべての講義を収録したとしておよそDVD1枚を少し上回る程度のデータ量となることが予想される。音質等を利用した学生の反応を聞きながら調整する必要がある等、記録容量が変化する余地は残るものの講義実施記録の保存形式としても十分に考慮に値すると言える。

また、StreamAuthorを使用したコンテンツを学生に提供するには、どの授業にStreamAuthorを利用するのが適切なのかについて検討を行う必要があると考えられる。

例えば、StreamAuthorはその性質上、学生の授業への出席意欲を低下させる可能性が存在することから、大学で授業を受けることに慣れさせる段階にあると考えられる低次学年生（特に1年生）に対しては、過度に使用すべきではないかもしれない。

実際、筆者のゼミに属する学生などにStreamAuthorの使用について聞いてみたところ、「やむをえず欠席をした場合に助かる」「授業で聞き逃したところを復習できる」という肯定的な意見がある一方で、「きっちり授業に出席している学生が不利にならないような工夫が必要」といった意見も散見された。

る大学教育」を目的としている²。それゆえ、夜間主コースに属する全ての学生は、何らかの職に就いており、それゆえに授業への出席が少なからず困難な場合も存在する。特に、6時限目（夜間主コースの1時限目）の開始時間は18時であることから、勤務等の都合で、授業開示時間に大学に到着できない学生も少なくない。

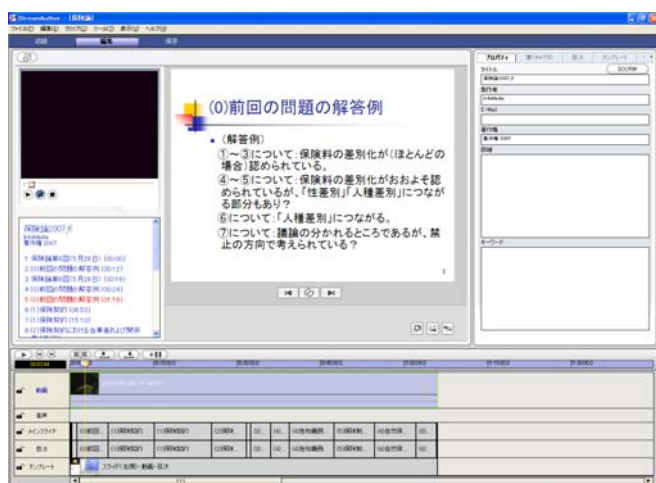
以上のような現状を鑑みた場合、経済学部の夜間主コースで開講されている科目に対して、StreamAuthorを利用することは、他の場合に比して、効果が大きいものと考えられよう。

なお今回の講義は、いわゆる「知識提供型」の講義であり、その他に「技術習得型」の講義がある点にも留意する必要がある。それらの違いを考慮したコンテンツ作成が必要であると考えられる。講義の動画やプレゼンテーションの資料に加え、ドリルなどの演習教材や、授業内容を補足するような、あるいは受講者自らの探求のための追加的な資料の提供などの相補的なeラーニングならではの展開が望ましいものと思われる。

[謝辞]StreamAuthor 使用の機会およびサポートを提供していただいた黒川部門長以下情報メディア基盤センター情報メディア部門に感謝します。

参考文献

[1]StreamAuthor ホームページ: <http://sa.cli.co.jp/>



図：StreamAuthor の録画編集画面

最後に、StreamAuthorの有用な活用の場として、経済学部における「夜間主コース」の存在をとりあげておきたい。

経済学部の夜間主コースは、「社会人・勤労学生に対す

² この点は、経済学部社会人入試にかかるアドミッション・ポリシーに明記されている。詳細については、以下のURLを参照。
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/nyushi/youkoh/19%20syakaijin2jibosyuu.pdf>（ただし本募集要項は昨年度用（2次試験時）である）。